いたちかわらばん

通刊５５号　鼬川・独川 / 川原番・瓦版　'11 秋号

【版画　宗森英夫】

権現山展望台

権現山展望台

昇龍橋から五〇メートルくらい上流に木の欄干の「権現橋」がある。この橋を渡って畑の横を通り、やや急な坂を上りきると、開けた尾根筋に出る。そこが権現山で、頂上に木造の展望台があります。

そこからの眺めが特に良いと言う訳でもないが、新緑の頃は緑に包まれて、清々しい気分になる。周辺には木のベンチがあり、ハイキングの途中で一休みするのに丁度よい所です。しかし、長年風雨にさらされてきた木造の展望台は傷みがひどく解体撤去されることになりました。このような施設の維持管理が大変なことは理解できるが、なくなるのは淋しい気もします。

権現山の名前の由来は、徳川家康が検地に来た時に小高いこの山から見渡したということから権現山と呼んで昔から地元に言い伝えられてきたものです。そこに行くには丸太を渡した程度の橋でしたが、一九九三年から始まった小川アメニティの整備工事の時に架橋して地元の方々によって「権現橋」と命名されたものです。

その橋を渡る手前は河川敷が広くなっていますが「馬洗い場」と呼ばれ鎌倉時代に当地で製鉄された鉄を馬に載せて金沢八景の港まで運搬した時に馬を休息させて洗った場所と言い伝えられています。その丸太橋を渡って「権現山」を登り少し降りたところから右に折れ山に登ると、現在のハイキングコースとなっている「馬の背コース」から「鉄の道」を通って金沢区に行く道が昔の公図を辿ると良く解ります。昔の歴史を思い起こしながらハイキングを行うと、なおいっそう楽しいと思います。

（いもり）

切取り線

この部分を切り取りファイルにすると便利です

今年も「いたち川知り隊」が７月２６日（火）に扇橋の水辺を中心に実施されました。対象は栄区在住か在学の小学生。定員は３０名で、今回参加してくれたのは抽選で選ばれた１年生が８人、２年生が７人、３年生が６人、４年生が３人、５年生が１人、６年生が１人、合計は２６人、当日欠席が４人でした。

今年調べたのは、周辺の植物、いたち川にすむ魚、いたち川にすむ水中生物の３項目です。例年低学年の参加が大半なので、今年から水質の検査は取り止めになりました。低学年の学童にＰＨ（水素イオン濃度）などを理解してもらうのは難しいという判断です。

はじめに今日の観察の流れや熱中症への注意などがあり、その後２班に分かれて植物観察に出発。植物の担当はいたち川ＯＴＡＳＵＫＥ隊です。今回は矢沢堀小川アメニティを中心にゆっくり１時間余り観察しました。それでも両班とも詳しく説明できたのは約２０種程度でした。

後半は横浜市環境創造局環境科学研究所の皆さんが担当し、魚類と他の水生動物の２班に分かれてみんなで実際に川に入って採集をしました。やっぱり実物を見ながらとはいえ主に言葉で説明を聞く植物より、実際に川に入って採集する方がおもしろいのは当然で、なかなか捕れないにもかかわらず時間まで夢中になって追いかけていました。

本郷小３年谷保澪（たにやすみお）さんの感想：アカメガシワの実がおもしろかった。川ではオイカワの子どもがとれた。

本郷小３年有賀功祐（あるがこうすけ）君の感想：川は全部おもしろかった。アメンボがとれた。植物ではクローバーの仲間だと思っていたのがカタバミという種だとわかってよかった。

扇橋の水辺のいたち川で水性昆虫や小魚を探すこどもたち。

当日確認したのは以下のとおりです。

［植物］ムクノキ、イロハモミジ、コブシ、エノキ、エゴノキ、ガマズミ、オカメササ。水草ではオランダガラシ（クレソン）、サンカクイ、アサザ、ホテイアオイ、ヒメガマ等

［魚類］スミウキゴリ、ドジョウ、シマドジョウ、アブラハヤ、オイカワ

［水中動物］ミズムシ、アメリカザリガニ、サワガニ、ヒラテテナガエビ、ミナミテナガエビ、アメリカツノウズムシ

［昆虫］コオニヤンマ、コシボソヤンマ 、シマトビケラ類、コカゲロウ類、カワゲラ類、ガガンボ類

キャンドルナイト in さかえ２０１１
開催　11月19日（土）本郷台駅前広場

１７時～１９時の２時間だけ電気を消してロウソクの灯で過ごすシンプルな環境保護活動です。やわらかな光の中に浮かびあが様々な工作物、音楽の調べを楽しめます。

発行年月
2011年9月
通刊55号

発行：独川 OTASUKE隊　（いたちがわおたすけたい）
OTASUKE隊事務局:栄区役所区政推進課企画調整係　〒247 - 0005　横浜市栄区桂町303 -19
TEL 045 - 894 - 8161　FAX 045 - 895 -2260
栄土木事務所下水道・公園係　〒247 - 0007　横浜市栄区小菅ケ谷 1- 6 -1
TEL 045 - 895 - 14 11　FAX 045 - 895 -1421
（お便り・お問い合わせは こちらまで）

災害というと、今年の東日本大震災や台風12号がもたらした近畿・中国・四国地方の洪水を思い出され、我々が住む栄区は大丈夫なのか心配になります。津波が河川を遡って広範囲に被害をおよぼした映像を目の当たりにすると、本来水害から街を護る役目の河川が逆の作用をしているように映りました。

栄区の海からの高さはどの位あるのか、データによりますと区役所周辺で約 13m 川底で 10m 前後、下流域では７m前後だから、今回の 10m を超える津波が来れば当然到達する可能性がありますが、周辺は 20 ～ 50m の丘に囲まれていますので冷静に対処すれば良いと思っています。

いたち川は横浜自然観察の森の源流部から柏尾川に合流するまでの全ての川が横浜市栄区を流れる全長約９km、流域面積約１４km^2 の２級河川です。柏尾川はさらに境川に合流して相模湾に流れ出ています。

いたち川の機能は、天神橋より下流の勾配は 500m で 1m 下がる非常に緩やかな流れで、有効川幅 11.1 m～ 18.6 m、計画洪水流量は１秒間に 90m^3(柏尾川合流点）で、概ね１時間に 50 ㎜の降雨量に対応出来る設計になっています。近年の集中豪雨は、１時間 50 ㎜を超える記録が頻繁に起きています。数字的にみれば栄区内も降雨の度に川から越水して洪水を引き起こしてもおかしくないと思いますが、現実にはそんなことはありません。それは、栄区内には雨水調整地、遊水地が 170 か所以上ある事により、雨水が河川に到達する時間を遅らせているからです。雨水調整地は一つの住宅地の流末部分や大きな建築物の地下などに設置されています（区民生活マップでは遊水池と表示されていますが、機能的に分類すると雨水調整地です）。

中流域には、野七里遊水地、大船台雨水調整地、第百ゴルフ練習場、桂台第一遊水地、桂台第二遊水地、桜井遊水地などの大きな遊水地が造られ、また、これら以外にも学校のグラウンドの地下等にも遊水地的施設が造られています。

遊水地は河川の水を一時的に滞留させ、水量を調節している施設のことで、いたち川では、扇橋の水辺、稲荷森の水辺、坊中の水辺の低地，石原橋下流域の低地部分がその機能を果たしています。

いたち川右支川は河川が鋭角に蛇行していることもあり越水を起こしていましたが数年前から神奈中横浜営業所上流部で本川とのバイパスが完成したことにより、いたち川右支川（瀬上沢）の流量を調整しています。

栄区は緑の面積が全体の４２％を占めており、戸建て住宅も多く、その緑の面積を含めれば緑地率は 50% を超えていると思われます。河川の流域面積内に降った雨のうち、都心部と違い緑がある所に降った雨の２５％は葉や樹木に伝わってゆっくり流れ、蒸発したり、樹木・地下に吸収され残りが地表を流れて排水施設に行くと言われています。

栄区はいたち川を中心としたエコシティーの都市と言われているのは、皆で緑を護り街を綺麗にする活動が盛んであるからだと思われます。降雨時の初期に流れ出すゴミや樹木により排水機能をマヒさせない安全で綺麗な街を将来の子供たちに残したいものです。

水・人・子（ミジンコ）

瀬上沢・上口橋近くのバイパスの入口（上）. 降雨の後は上流からのゴミはここで取り除かれ、地下を通りいたち川本川に合流する。（下）

リレートーク 37

橋の下の力持ち

いたち川は上郷市民の森の麓で流路を北から西へ変え、川幅も広くなります。そこに数年前河川敷を整備して石原橋が造られました。

最近、石原橋周辺の広い河川敷が見違えるほどきれいに刈り込まれているのをお気づきの方も居られると思います。尾月に住む人たちに畏敬の眼差しで見られているMさんの仕業です。

昨年の春頃からMさんは石原橋に現れ、石原橋周辺の河川敷の流木、ゴミ類を取り除き、２m程に伸びたススキ、オオブタクサ、クズ等が繁茂する河川敷の雑草を刈り取り、きれいな河川敷を造りました。

水辺で黙々と作業をされるMさんの姿を近くのスーパーへの行き帰りに目にする奥様たちは、最初は不思議そうな眼差しで視ていましたが、暑い最中に一途に黙々と草刈りをする姿に「ご苦労様です。有り難うございます。」と冷たいお茶を差し入れする奥様もいて、尾月の住民にとって、会話は無くともMさんは身近な存在となっています。

Mさんの活動は地域の環境にも良い刺激を与え、河川を管理する土木事務所も重い腰を上げ、ゴミの収集も早くなり、また、周辺の梅林、アジサイロードの草刈り、剪定をすすんで行う人も増えたように思えます。

（谷　渓）

秋の七草

食べられる植物として春の七草は良く知られていますが、秋の七草は花をめでる植物として昔から歌詞に多く歌われています。万葉集で山上憶良が「萩の花　尾花　葛花　ナデシコが花　オミナエシまたフジバカマ　朝顔の花」とうたわれています。

この歌詞の尾花はススキのことで、朝顔の花はキキョウのことで、別名アリノヒフキと言う名前があります。花びらをアリに噛ませると蟻酸によって赤くなります。昔の子供の遊びから付いたと言われています。クズの根からは葛餅や葛きりとして親しまれるだけでなく、風邪薬「葛根湯」として売られています。萩の根は婦人のめまいに、ススキの根茎は利尿剤、撫子の種子は消炎、利尿剤にと、古人は夏の疲れを取る民間薬として指定した様にも思われます。

水・人・子（ミジンコ）